

国語

注意

- 1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにして下さい。
- 2. 試験開始の合図があるまで、冊子を開かないで下さい。
- 3. この冊子には、問題 15 ページ、マークによる解答用紙 **マク** 1 枚、記述による解答用紙 **記述** 1 枚がセットになっています。
- 4. 試験開始の合図がされたら、問題のページ数を確認し、解答用紙 **マク**・**記述** をマシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し、両方の解答用紙に受験番号を記入して下さい。

解答用紙 **マク** では解答欄の裏側の受験番号欄に数字とマークの両方で記入するようになっています。右の例を参考に記入して下さい。

例：受験番号
5 1 9 0 の場合

受 験 番 号				
	千位	百位	十位	一位
	5	1	9	0
1	①	●	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	③	③
4	④	④	④	④
5	●	⑤	⑤	⑤
6	⑥	⑥	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	⑦
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	●	⑨
0	⑩	⑩	⑩	●

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

- 5. 問題 **二** は選択問題です。解答用紙 **マク** の選択欄にマークして、**二-A**、**二-B** のどちらか一方に解答して下さい。両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがありますので、注意して下さい。
- 6. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの個所がある場合は申し出て下さい。
- 7. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入して下さい。
- 8. 解答用紙 **マク** は、すべて **HB** の黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。HB の黒鉛筆、消しゴムを忘れた人は申し出て下さい。
- 9. 文字ははっきり書いて下さい。解答の文字が読みにくい場合は点を与えないことがあります。
- 10. 解答用紙の評点欄には何も記入してはいけません。

問題は次のページより始まります。

アメリカの社会学者ジェームズ・コールマンは、学校教育の普及による家族の変化を、以下のようにまとめた。

親が子に果たす主な役割は、何かを直接教育することではなく、学校に通うために必要な(主に A な)支援を行い、子どもを学校に通わせることへと変化する。それにより子どもは、何らかの職業に就くことが可能となる。そして親が老いれば、子が親を支える。子どもへの教育投資は、そういう意味で、自分(親)の老後への先行投資の意味をもっていた。

しかし産業化に伴い、高齢者の生活維持の仕組みが政府によって整えられた。年金や社会保険制度の設置と充実は、老親の扶養義務から子どもたちを解放していく。^注 イエスタ・エスピニン^①アンデルセンが注目したように、福祉的機能を担うのは国家か、企業かといった違いは存在するが、基本的に高齢者扶養は外部化^①する方向に進んできた。こうなれば、子どもへの投資が自分の老後の生活のため、という意味が薄れる。

したがって、子どもへの投資意欲や子どもをもつ B は減退する。合理的な親ならば、(将来の先行投資にならない)子どもの誕生数を極力抑え、少数の子どもの教育に資源を集中するだろう。

産業化で、生産基盤を生み出す源が家族から会社などの外部組織に移れば、家族を家族として結束させる重要な根拠が一つ失われる。生活のために結束する必要があった家族から、結束する必然性が失われて、代わって家族は「愛情」^②という情緒的なつながりを根拠に旧来の形態を維持するようになった。

家族は愛情という情緒的結合を基礎に、自律性を手に入れた。ただ情緒的結合は、不安定なものだ。良し悪しは別として、生活に直結する結合であれば、家族がバラバラになるわけにはいかない。しかし情緒的結合を基礎とすると、愛情がなくなれば、一緒にの生活が足枷^aになり、苦痛を感じる。

家族を構成する個人も、一人ひとり独立した人間だ。選択の自由という考え方は、家族のみならず個人にも適用される。生活上必要性を感じない制約は、単なる拘束や障害でしかないから、自由を求める風潮は強まる。また、テクノロジーの進歩が、個人の自由な行動をますます可能にする。

以上のコールマンの考察を踏まえて考えてみよう。インターネットや携帯電話の普及はテクノロジーの進歩だが、これは個

人単位での行動を可能にし、自らの関心を自分と周囲の狭い範囲に限定させる風潮に拍車③をかけた。このことは、社会や共同体を意識する場合自体が減少したことを意味する。これが社会の個人化とよばれる現象である。

家族と社会との関係が変容すると、子育てをめぐる、家族が抱く利害と、社会全体としての利害との間に C が生じるとコールマンはいう。具体的には、次のようなことだ。

個々の家族は、子育てについて一定の選択権をもっている。もちろん、自分の子どもが望ましい形で育ってほしいと願うのは皆同じだろうが、その中身に共通見解はない。基本的に、すべての子が学校に通っているから、それだけでは飽き足りない家族も出てくる。家族として望む教育や子育ての方針と、それを取り巻く社会全体の価値観が異なることもあるだろう。

子どもは、自身の方針に沿って育てたい。その思いが強ければ、親は自らコストを支払ってでも、好みに合った教育を受けさせようとする。しかし学校教育は、社会全体を維持するためのものであり、だからこそ公共性をもつ。特に公立学校の原資は税金なので、教育内容に一層の普遍性をもたなければならない。ただ、普遍性を保つことは、X。そのため何らかの教育志向を強く保持する家族にとって、公立学校の教育は物足りなく、不満の源泉となる。

そうした家族が、私立学校に子どもを通わせようとする。もちろん日本の現行制度のもとでは、私学にも政府から一定の補助金が入っているし、私学も公教育の一翼を担っている。カリキュラムが公立と全く異なるわけではない。しかし(そういう選択が可能な家族は、富裕層が多いと思われるが)、彼らは税金を納めながらも、主として税金で運営されている公立学校に子どもを通わせず、あえて追加の費用④をかけて私立学校を選択する。

これは次のようなジレンマを(特に子どもを私立学校に通わせている高所得層の家族に)起こさせる。所得の増加に伴い税率が上昇するルイシン課税制度をとっていれば、高所得層の納めている税額は多くなる。したがって公立学校の運営費に、高所得層は D している。ところが高所得層は、公立学校に強い不信感を抱いている。それで高い授業料を払ってまで、私立学校を選択する。納税の義務はあるので(もちろん納めた税が個別に何に使われているかはわからないのだが、感覚としては)公立学校の運営費に税金がまわっていくことは避けられないが、自分の子どもはその税金が多く注ぎ込まれた公立学校の

サービスを受けているわけではない、と不満を抱くことになりやすい。

また現代は、家族の個人化が進み、未婚者や子どものいない夫婦が増加している。子どもを産まない、育てないという選択は、やむを得なかった人もあれば、自ら進んで決断した人もあろう。いずれにせよ、彼女らもやがて老いるから、老後に備える必要がある。将来頼れる親族はいなくなる可能性もあり、将来の生活の責任は自分で負うことになる。それらすべてを個人でマカナマカナいきれないため、国家は年金や社会保険制度の仕組みを整える。

年金にせよ社会保険制度にせよ、究極的には支え合いの制度であり、高齢者が一定の生活を維持するには、原資となる年金・保険料を納める現役世代が必要となる。また今の現役世代も、老いたら、将来の現役世代（現在の子世代）に頼ることになる。金銭的な問題だけではなく、物理的な意味で、介護サービスの担い手を確保する必要も出てくる。こうした福祉制度にとって、少子化は脅威である。

身近な社会に限定すれば、子育てや高齢者介護なども徐々に社会化され、これらをすべて家族で担う必要性は減っている。老後の面倒を見てもらうために、子どもを育てるような時代ではない。それゆえ個別のカップルにとっての出産は、自由な選択の意味合いが強まり、子育てにかかる費用も、投資というより E と見なされる。当然、結婚や出産に対して、他者が口を差し挟むことは余計なお世話となる。

しかし自由度の高まった個人を支えるのは、社会全体の制度である。その仕組みは、 Y 。つまり、少子化が進行しすぎると、個人の選択の自由を支える仕組み自体が危機に瀕するのだ。

個人の自由と社会制度の間に生じるこうした矛盾は、子育て家族に寛容ではない風潮をうまく説明できる。「自由」を突き詰めれば、子どもを産んだのも、あなた個人が決めたことでしょ、という考えに行きつくことになるだろう。

だから税金を投じた子育て環境の整備、教育費負担の軽減のような子育て世帯を利する政策は、子どもをもたない人にとって、不公平感を募らせることになる。

しかし、子育ては、将来の社会の一翼を担う構成員を育てる意味をもつ。子どもがいなければ、そのコミュニティは将来死

減するに等しい。

福祉制度は、現在、そして将来の現役世代によって支えられている。つまり、子育て世帯は、将来のセーフティ・ネットを支える社会的構成員を育てているともいえる。にもかかわらず、将来世代の育児や教育の多くを私費でまかなわせようとするのは、あまりに身勝手だという不満を抱きかねない。

子どものいない世帯には、子育て支援政策により還元されるものは、短期的に、また狭い範囲でみると存在しない。他人の子どもは関係ないし、下手をすると鬱陶しい存在ですらある。また子育ての喜びや楽しみを得る機会ももっていない。だから子育て支援のための増税には、一方的な負担だと感じるだろう。

他方、子育て世帯にとって、自分の子どもはかけがえない存在だ。とはいえ、子育ての金銭的成本は無視できない。そうしてコストをかけた子どもが自分たちの老後の面倒を見るという社会であれば、話は単純だ。しかし現実には、そうではない。世の中はもちろん積極的に結婚・出産を選択しない人も増えているが、子どもが欲しくてもできないとか、何らかの事情で結婚できない人もいる。そうした人々をすべて含めて、社会的に支えるのが福祉国家のあり方だ。

だから子育てを、単なる個人的選択や楽しみと決めつけることはできない。子育てにかかるコストがベネフィットをあまりに大きく上回るようであれば、子どもの欲しいカップルでも、出産を躊躇せざるを得ないことになるだろう。

表向き子どもは大切だいいながら、一方で子どもや子育てをめぐる非難やクレームがあとを絶たない。その背景には、以上のような子育てと、その利害をめぐる解消しがたい対立が存在するのだ。

(中澤渉『日本の公教育』)

注 イエスタ・エスピン＝アンデルセン＝一九四七年。デンマーク出身の社会学者。福祉国家の研究で有名。

問一 傍線①「外部化」を言い換えるのに最も適当な語を問題文中より三字で抜き出しなさい。(解答用紙 記述)

問二 空欄A～Eに入る最も適当な語を次のイ～ニからそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。

(解答用紙 マク)

A	イ 経済的	ロ 技術的	ハ 福祉的	ニ 公共的
B	イ リスク	ロ ポテンシャル	ハ インセンティブ	ニ アウトプット
C	イ 一致	ロ 齟齬	ハ 不満	ニ 価値
D	イ 依存	ロ 警戒	ハ 反発	ニ 貢献
E	イ 貯蓄	ロ 生産	ハ 消費	ニ 分配

問三 傍線②「家族は「愛情」という情緒的なつながりを根拠に旧来の形態を維持するようになった」とあるが、家族がそうなったのはなぜだと考えられるか。問題文の趣旨にそって八〇字以内で説明しなさい。(解答用紙 記述)

問四 傍線③「拍車」は「拍車をかける(拍車がかかる)」という慣用句として使われることが多い。この「拍車」とはもともと何のことか。次のイ～ニから最も適当なものを一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙 マク)

- イ 乗馬靴のかかとりに取り付ける金具
- ロ 円板の周囲の溝に綱をかけ、綱を引くことで物を動かす道具
- ハ エンジンなどを始動させるための電池式モーター
- ニ 綿花や繭から糸を紡ぐために使う道具

問五 傍線④の「費用」を言い換えるのに最も適当な語句を問題文中より六字で抜き出しなさい。(解答用紙記述)

問六 空欄X、Yに入る最も適当なものを次のイ～ニからそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。

(解答用紙マ)

X

イ 教育の無償化を推し進める政策と結びつきやすい

ロ 教育目標を抽象的で差し障りのないものとしやすい

ハ 政府の学校教育の予算の増大を招く結果になりやすい

ニ 教育内容を特定の個人のニーズに合わせてやすい

Y

イ 子どもや若者が一定程度存在することで成立している

ロ 国民の平均寿命が延び続けることを前提としている

ハ 若い世代が積極的に政治に参加することで維持されている

ニ 教育が子どもへの投資となることが不可欠の条件である

問七 傍線⑤「子育てを、単なる個人的選択や楽しみと決めつけることはできない」とあるが、それはなぜか。問題文の趣旨に

そって八〇字以内で説明しなさい。(解答用紙記述)

問八 次のイ～ホについて、問題文の趣旨に合っていれば○に、合っていなければ×にそれぞれマークしなさい。

(解答用紙 )

- イ 未婚者や子どものない夫婦が増えると、誰が公教育の費用を負担するのかをめぐって意見の対立が起きかねない。
- ロ 高齢者の生活維持の仕組みが整った現在では、老後の生活を経済的に支える公的制度は不要になった。
- ハ 我が子を私立学校に通わせる親は、多くの税金が公立学校の運営費に注ぎ込まれることに不満をもちやすい。
- ニ 現代ではテクノロジーが進歩したことから、学校教育のカリキュラムの内容がますます自由度を増している。
- ホ 子どもや子育てをめぐって非難やクレームを述べるのは、子どもが欲しいのに出産を躊躇したカップルである。

問九 波線 **a** の漢字の読みを平仮名で書きなさい。また、波線 **b**、**c** の片仮名を漢字(楷書)で書きなさい。(解答用紙 )

〔選択・現代文（A現代文・B古文の両方に解答した場合、両方とも採点されないことがあります）〕

二―A

従来は、機械やプログラム等の力を借りて生産活動を行う場合、それらの機械やプログラムが自律的に判断することは無かった。体力を代替する電力機械や内燃機関であっても、知力を代替する情報処理装置（IT機器）であっても、その技術を活用する“目的”に加えて、その機器を使う対象となる“材料／情報”と“プロセス”を、人間があらかじめ設定・設計しておく必要があった。例えば、「陸上で長距離輸送を行う」仕事をするためには人間が輸送車両（例えば大型トラックなどの貨物列車などの）を選定・調達し、走行経路を決定・計画することが必要であり、「企業の成長予測を行う」ためには財務資料や競合他社の動向といった多数あるデータのうち、どのデータを活用するかを決めて、実際にデータを収集し、そのデータをどのような計算式に当てはめるのかについて事前に人間が設計する必要があるということである。

機械やITを使う上で、目的と材料とプロセス設計という3点セットを準備することは“人間の仕事”であり、人間が様々なお膳立てをした上で機械やプログラムの機能を活用するというのが人間と機械の間の基本的な役割分担となっていた。そして、この「お膳立てを要する」という点^①が仕事の完全自動化を実現する上でのボトルネックとなっていたのである。

人間の推論・判断プロセスは、実は私たち自身が考えているよりもはるかに複雑であり、無意識下でボウダイな情報処理を行っている。従って人間が脳で行っている推論や判断プロセスの完全なフロー図を描くことは不可能に近い。有名な事例では、1970年代に医者^{注1}の病理診断プロセスを

A

しようとして開発されたMYCIN（マイシン）というAIシステム

が、例外処理や言葉の解釈を適切に行えないために的確な判断を下せず、実用に耐えるレベルには到達できなかった。MYCINはスタンフォード大学が5年以上もの歳月をかけて開発に取り組んだシステムであったにもかかわらず、感染した細菌の種類と適切な処方箋の提案というごく限られた目的においてすら、人間と同等の成果を出すことはできなかったのである。

この事例に代表されるように、^②20年程前まではAIは実用性に乏しく、人間の知力を代替できる兆しは見えていなかった。しかし21世紀に入ってからディープラーニング（深層学習）と呼ばれる新たな技術が登場し、長年乗り越えることのできなかつ

た障壁が打ち破られつつある。ディープラーニングを用いることで、推論・判断プロセスを人間が設計することなく、AI自身が自律的に学習・習得できるようになったのだ。これまで人間が担っていた目的設定と材料提供とプロセス設計という3つの役割のうち、プロセス設計の役割をAI自身に担わせることが可能になったのである。

ディープラーニングという技術が一般社会から注目を集め始めたきっかけは、2012年に発表された「グーグルの猫」である。グーグルの猫とは、グーグル社がディープラーニングの技術を活用してAIに猫画像を学習させ、ある画像が猫であるか否かを判別できるようになったという成果を指す。学習教材としてAIに与えられたのは大量の猫画像のみで、人間がその判別方法を B することなく、AI自らが X を行うことで学習したのである。

人間のように試行錯誤しながら学習することがAIにもできるようになったことで、MYCINの時のように判断基準の要件を一つ一つ設計・設定する必要がなくなっただけでなく、推論・判断の精度も劇的に改善された。人間によるお膳立てを一部不要とするという技術的飛躍によって、ディープラーニングは一躍“時の技術”となった。ちなみにグーグルの猫は視覚情報処理に C AIであったことから、ディープラーニングの登場によって「AIは目を手に入れた」と評価された。

そしてこの後AIを活用した技術開発が次々に成果を出していったのだが、生物が目を手に入れたことで爆発的に繁殖した5万年前の「カンブリア爆発」という現象になぞらえて、この新技術開発ラッシュは「AIのカンブリア爆発」と呼ばれている。「グーグルの猫」からわずか3年後の2015年には、ILSVRCと呼ばれるAIの画像認識コンテストにおいて、ディープラーニング技術を駆使したチームが人間の画像認識能力を上回る成果を挙げたことも注目された。この時をもって、AIが人間を代替できるレベルにまで達したと評価・b ショウサンされるようになったのである。

(中略)

AI革命のインパクトは(中略)GDPの拡大や経済成長の加速化といった経済の側面だけでなく、人々の働き方やライフスタイルにも重大なインパクトをもたらす。AIがもたらす生産性の飛躍的向上は生産活動における労働力の削減という形で表

れることになる。そしてその結果、人々は労働にとられる時間が減って自由に過ごせる時間が増えることになる。

1人当たりGDPが2万ドルを超えた段階からは経済水準の高さが人々の豊かさと直結しないと言われてきたように、先進各国においてはGDPという指標と現実的な国民の豊かさとがリンクしていない。人々が生活を営む上での豊かさは、消費したり所有したりすることができる財貨の多寡^{たか}に加えて、その人がやりたいことを自由にやれるのかという自由度の大きさによって決まる。いかに多額のお金を稼いで多くのモノを所有していても、自由に旅行したり、家族や友人と交流する時間が持てなければ豊かだとは実感できない。

^{注3}ケインズの時代と比べて人々が消費／所有する財貨はGDPの伸びに表されているように大幅に向上したが、その一方で労働時間はあまり減っておらず、自由度は拡大してこなかった。AI革命が我々にもたらしてくれる最大のインパクトは、これまであまり改善されて来なかった自由時間の拡大、生活の自由度の向上にあると考えられよう。

新しいテクノロジーによって生産性が向上し、人々のニーズが満たされて経済成長がもたらされると、人々はより豊かな生活を求めて新たな財貨やサービスを欲し、そのニーズに対応して産業構造がシフトしていく。

産業革命以前の世の中では最低限の衣食住こそが一般市民にとっての切実な欲求であり、生きていくだけで精一杯という最低生活費水準が有史以来ずっと続いて来た。しかし産業革命後には人類史上初めて生きていくための最低生活費水準を脱した生活を営めるようになった。人々は肌を覆うだけではなく装飾をほどこした衣服を身に着け、生きるためのカロリーだけではなく美味しさを楽しむための食事をとり、雨露を凌ぐ^{しの}だけではなくより快適な住居に住むようになった。またこうした物質的豊かさが人々に行きわたったことで、心理的満足や社会的満足に繋がるようなより高次の欲求やニーズが顕在化し、それに

D

旅行や音楽や演劇といった多様なサービスが登場してきた。産業革命以降の人々の生活の豊かさは、このようにして向上して来たのである。

(波頭亮『文学部の逆襲』)

注1 AI = Artificial Intelligence の略、人工知能のい。

注2 GDP＝Gross Domestic Productの略、国内総生産のこと。

注3 ケインズ＝一八八三～一九四六年。イギリスの経済学者。

問一 傍線①「仕事の完全自動化を実現する上でのボトルネックとなっていた」とあるが、AIがディープラーニング技術を用いることによってそれまでできなかったようなことができるようになったのか。問題文の趣旨にそって七〇字以内で説明しなさい。ただし解答は「従来、機械やITを使う際、」から始めることとし、この部分を含めて七〇字以内で説明すること。（解答用紙記述）

問二 傍線②「20年程前まではAIは実用性に乏しく、人間の知力を代替できる兆しは見えていなかった」とあるが、AIが人間の知力を代替できるようになったと判断されたのはどのような事実によってか。問題文の趣旨にそって二五字以内で答えなさい。（解答用紙記述）

問三 空欄A～Dに入る最も適当なものをイ～ニからそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。（解答用紙マク）

A	イ 模倣	ロ 決断	ハ 省略	ニ 収集
B	イ 学習	ロ 入手	ハ 認識	ニ 設定
C	イ 拡張した	ロ 同期しない	ハ 特化した	ニ 限定しない
D	イ 反して	ロ 呼応して	ハ 集中して	ニ 対峙して

問四 空欄Xには傍線③「試行錯誤」と同じ意味の外来語が入る。最も適当な語句を書きなさい。（解答用紙記述）

問五 次のイ、ロについて、問題文の趣旨に合っていれば○に、合っていなければ×にそれぞれマークしなさい。

(解答用紙 )

イ 企業の成長予測を行う場合、多数あるデータのうちのどのデータを活用するかを決めることは、人間があらかじめ設定しておかなければならない目的の選定にあたる。

ロ 「グーグルの猫」の技術の優れた点は、画像の判別に伴う複雑な推論や判断プロセスを人間があらかじめ設計することなく、視覚情報処理ができることにある。

ハ AI革命によって労働時間が削減されることになり、我々に自由時間の拡大、生活の自由度の向上という大きなインパクトをもたらす。

ニ 産業革命後、人々は最低生活費水準を脱した生活を送れるようになり、財貨の多寡に加え、多くのモノを家族と共有することで生活を営む上での豊かさを実感することとなった。

問六 波線 a、b の片仮名を漢字(楷書)で書きなさい。(解答用紙 )

(選択・古文) (A現代文・B古文の両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがあります)

二―B

昔、天竺の人、宝を買はんために、錢五十貫を子にもたせてやる。大なる川のはたをゆくに、舟に乗りたる人あり。舟のかたを見やれば、舟より、亀、くびをさしいだしたり。錢持ちたる人、立ち止まりて、この亀をば「何の料ぞ」と問へば「殺して物にせんずる」と言ふ。「その亀買はん」と言へば、この舟の人は、いみじき大切な事ありて、まうけたる亀なれば、いみじき値なりとも売るまじきよしをいへば、なほあながちに手をすりて、この五十貫の錢にて、亀を買ひとりて放ちつ。

心に思ふやう、親の、宝買ひに隣の国へやりつる錢を、亀に替へてやみぬれば、親、いかに腹立ちたまはんずらん。さりとて、また親の元へ行かであるべきにあらねば、親の元へ帰り行くに、道に人のあて言ふやう「ここに亀売りつる人は、このしもの渡りにて、舟うち返して死にぬ」と語るを聞きて、親の家に帰り行きて、錢は亀に替へつるよし語らんと思ふ程に、親の言ふよう「何とてこの錢をば返しおこせたるぞ」と問へば、子の言ふ「さることなし。その錢にては、しかじか亀に替へて許しつれば、そのよしを申さんとて参りつるなり」と言へば、親の言ふよう「黒き衣着たる人、同じやうなるが五人、おのおの十貫づつ持ちて来たりつる。これ、そなる」とて見せければ、この錢いまだ濡れながらあり。

はや、買ひて放しつる亀の、その錢川に落ち入るを見て、とりもちて、親の元に、子の帰らぬ先にやりけるなり。

(『宇治拾遺物語』)

注 「何の料ぞ」「この亀は」何をするためのものなのか。

問一 波線A、Cの動作の動作主を次のイ、ロの中からそれぞれ選んで、その記号にマークしなさい。

(解答用紙)

イ 天竺の人 ロ 舟に乗りたる人 ハ 錢持ちたる人 ニ 亀

問二 傍線①「あながちに」のここでの意味として最も適当なものを次のイ～ニの中から一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙 **ア**)

イ 身勝手に ロ 無意識に ハ いいかげんに ニ 一途に

問三 傍線②「親」と同じ人を指す別の表現を問題文中から抜き出しなさい。(解答用紙 **記述**)

問四 二重傍線「放ち」に関して、問題文中にはこの「放つ」と同じ行為を別の動詞で表現している部分がある。その別の動詞を終止形で抜き出しなさい。(解答用紙 **記述**)

問五 傍線③「親の元へ行かであるべきにあらねば」を現代語訳しなさい。(解答用紙 **記述**)

問六 傍線④「この銭いまだ濡れながらあり」について、この銭が親のところにある理由と、それが濡れている理由を、両方含めて六〇字以内で説明しなさい。(解答用紙 **記述**)

問七 次のイ～ハの記述が問題文の内容に合っていれば○に、合っていなければ×にそれぞれマークしなさい。

(解答用紙 **ア**)

イ 「天竺の人」は「舟に乗りたる人」に殺されそうになっていた亀を、持っていたお金で助けた。

ロ 「黒き衣着たる人」は合わせて五人現れた。

ハ 銭五十貫が宝を買うために使われなかったので、親は大変腹を立てた。

問八 次のイ～ニのうち、『宇治拾遺物語』より後に成立した説話集を一つ選んで、その記号にマークしなさい。

- イ 今昔物語集 ロ 大和物語 ハ 沙石集 ニ 日本霊異記

(解答用紙 ☐)